

皆さん、どこかに急いでいる途中で、たまに歩みをとめて空を見あげると、「ああ、何て素敵なお空！今日も穏やかな1日！」と感じませんか。私たちは平穏さに慣れると、それが当たり前だと思ってしまいます。しかし、去年2022年の「今年の漢字」として戦争の「戦」の字が選ばれました。その理由の一つは、去年2月に私の国ロシアが始めた隣の国への侵攻です。そして、本日は私の国ロシアの国民の一人として、私なりの意見を話したいと思います。

戦争を始めた国の国民は悪人として扱われます。さらに、その国の言葉も文化まで嫌われるようになります。そう考えていると、もしかして私も悪人なのでしょうか？という暗い思いになり、涙もよく出るようになりました。日本語を学んでいる私には、日露関係の悪化によって、まるで体のどこかが怪我をしたかのように痛むのです。私は半年前には日本企業のモスクワ事務所に勤めていました。しかしロシアへの経済制裁で仕事を失ってしまい、日本に留学しようと決めました。とはいっても、これから日露の友好関係、そしてロシア文化を守るために自分ができることはないと私は思っています。そこで、この話を思い出しました。

かつて第二次世界大戦後、当時のソ連にいた日本兵は捕虜となって働かされました。ところが1946年、ある町で小学生と日本兵が交流してとても仲良くなり、一人の日本兵が自分の写真を女の子に残して帰国しました。

それから60年。70歳になったあの時の女の子は大切な写真を返そうと考えました。そして日本兵の息子さんとなんとか連絡がつき、直接会って、写真を手渡すことができたのです。

この話の日本人とロシア人は、敵同士などではなくお互いに自分の優しさを素直に表しました。その人間的な心の形を決して隠してはいけないと私は信じています。

実は、私は、日本に初めて来た2015年、あの日本兵の息子さんから直接この話を聞き、とても感動しました。そして、この話をロシア語に翻訳させていただきました。日本とロシアの間の絆を私ももっと作りたいと思ったからです。

今もこの私の希望は変わっていません。これから私は、平和を伝える詩を研究し、日本からロシアへ、そしてロシアから日本へ詩を紹介していきたいと思います。

ここで、私が翻訳したロシアの詩を少しだけ聞いてください。

今日もどこへ急いでる?
青空を見上げてみる?
白い鳩 羽ばたいてる
平和の歌 聞こえてる

白い鳩、平和の騎士
いつも勝ちますように
殺さないで 兄弟を
やめないで 人間を

戦争はいつかきっと終わりますが、その先、私達はどうすれば穏やかな日々に戻れるのか、お互いの信頼を回復できるのか、今こそ考えた方がいいのです。去年の漢字に選ばれた「戦争」の「戦」という字を、「戦争と戦う」という意味だと考えてはいかがでしょうか。私の戦争との戦いは、詩を通じて、ロシア人の本当の心の優しさ、そして平和の大切さを伝え、日本とロシアのかけ橋になれるように励んでいくことです。皆さんもそれぞれ自分自身の力を活かして戦争と戦いましょう。

ご清聴ありがとうございました。